

2019年 教育課程論第8回 (11月15日) 社会階層、社会的格差と教育

番号 19600 氏名

1 前回のリアクションを読んだ感想

「身の丈にあふ」という日ごろから使う言葉について、教育を学んでいる

個々の目標に立って考えてみて、目標を持つ生活することが大切だと実感できた

2 社会移動とは何か。社会的地位や社会階層は何で計られるのか。(A参照)

社会移動とは、世代間、ある世代内でその社会的地位を移動すること。職業構造の変動はどの外生的条件から生じる強制移動(構造移動)と、移動の機会が多量に生じる自発的移動(交換移動)とに区別される。社会的地位は試験を以て選別する。また教育の重要性が一般的に認識されているほど人の関心は、教育機会が誰に対して均等に保障されるかどうかの確信に向かう。

3 教育は社会移動にどのように関係していますか。(B、C、D参照)

親の経済的格差が教育を媒介して子どもに伝染される教育の中身は中産階級적이다。経済的に高い階層の文化は親和的であるが、経済的に高い階層の文化は経済的に低い階層の文化より優れているわけではない。経済不況の中で、正規雇用も減り、将来の保障も減っているわけではなく、進学も受験も過剰は冷めつつある。大学の選抜時も、格差地帯も有名校も減り、中等卒の卒業生や仕事も減った大学や学部選びになっている。学歴ではほぼ同等の人材がおり、

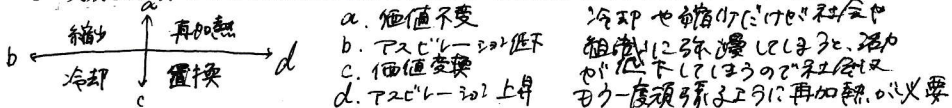
4 家庭にはどのような教育力の格差がありますか。(A後半、E、G参照) コミュニケーション能力、文化資本の格差。経済的に加わると親の時間ゆとりが少なくなる。それに伴って選択

ゆとりが子どもと一緒に本を読んだりする機会が少なくなる。

家庭としての子どもの生活目録が少なくなる。親の教育熱心の差

早期教育のちがひ、生活習慣のちがひが格差がうまれてくる。

5 失敗した時、どのような適応行動をとりますか(再加熱、縮小、置換、冷却) (F参照)



6 社会的格差をなくす(=減少させる)為に、どのような教育政策がとられるべきだと思いますか。(G、E参照)

今から親になる世代の人たちの早期学習など家庭での学習の大切さを学校で教えることについて、また政府は奨学金の負担や授業料の無償化を必要とすべきだと考える。

7 学校や教師は、社会的格差に苦しむ児童に対して、どのような指導をすればよいですか。

給食指導の際にも、多くの児童に対して面談したり、家庭での学習が不十分は児童には、まず学校に学校で学習の時間を見つけて場所をもうけてあげることから始める。セーフティネットの構築、家庭の教育力を支援する、生活習慣の改善を促して改善させる

8 他の人のコメントをもらう

( ) → I never!!

( ) → 要点をよくまとめられていて素晴らしいです



2019年 教育課程論第8回 (11月15日) 社会階層・社会的格差と教育

番号 1960 氏名

- 1 前回のリアクションを読んでの感想  
「身の丈にあった」の発言には、やはり皆批判的だと分かった。  
皆の意見を知られて良かった。
- 2 社会移動とは何か。社会的地位や社会階層は何で計られるのか。(A参照)  
社会移動...異なる時点間で社会成員が、世代間あるいは世代内で  
その社会的地位を移動すること。  
社会的地位の指標...主は(職業)。  
\*一時期、教育が身分や家柄による地位区分システムによってあり、社会的階層の階壁を崩した。  
3 教育は社会移動にどのように関係していますか。(B, C, D 参照)  
有名大学卒といえども奨学金が保証されるわけではない。進学や受験への  
過熱は冷めつつある。(高度経済成長安定期以後)  
教育の機会均等は憲法や法律で規定され、子どもには平等な教育が受けられる  
ようにはたが、実際は育下家族や親の教育方針によって、子どもの受ける教育に格差が生じる。
- 4 家庭にはどのような教育力の格差がありますか (A後半、E、G参照)  
家庭の教育力は、親の経済力や文化資本の差によって格差が生じている。  
一般に、親の経済力の格差が子どもの学力格差を決定すると言われている。  
例 ① 親が子どもに対して投資する資本が各家庭によって異なる。  
② 親の経済力の格差が家庭の文化資本の格差となってこれが子どもの学力格差を生む。

- 5 失敗した時、どのような適応行動をとりますか (再加熱、縮小、置換、冷却) (F参照)  

次善の選択	価値低下	リターンアップ	① 価値は同じだけれど違う
3スプレッション低下	① 縮小	② 再加熱	② ときに同じものを追求
	③ 冷却	④ 代替的興味	③ ためちう
代替的価値	価値変換	代替的野心	④ 目的が同じでも違う

- 6 社会的格差をなくす(=減少させる)為に、どのような教育政策がとられるべきだと思いますか。(G、E 参照) 奨学金、授業料無償  
親の社会階層と子どもの学力との関係は、直接に関係があるというより、その間にさまざまな媒介要因が存在し、影響していることが示される。

- 7 学校や教師は、社会的格差に苦しむ児童に対して、どのような指導をすればよいですか。  
・ 児童を見放すに寄り添いながら本々と一緒に解決を目指す。  
・ 少ないチャンスの中で最大限の力を出せるよう、学面・精神面を  
サポートする。

- 8 他の人のコメントをもらう  
( ) → いっぱい書いてありまあね、重要なところがわかりやすい  
( ) → 今日もすごいやる気だね!! その気合い 見習うわ



2019年 教育課程論第8回 (11月15日) 社会階層、社会的格差と教育

番号 1960 氏名

1 前回のリアクションを読んでの感想

嫌いなものに何かしていくことについて一人一人考えがあり、特に私も感じた「対等に 대해 向き合い、考えること(生き方が変わる)」という言葉の捉え方も多様であった。本当の生の為に教育で「生きる力」を養い、生きる喜びを与えられるような指導を行えるようにしたい。

2 社会移動とは何か。社会的地位や社会階層は何で計られるのか。(A参照)

世代間あるいは世代内でその社会的地位を移動すること。異なる時点(比較)言われる社会的地位や社会階層は、主として職業を用い、二時点間の地位の比較により上昇移動や下降移動という種類のギャップや移動距離あるいは全体社会における社会移動量などが測定される。

3 教育は社会移動にどのように関係していますか。(B, C, D 参照)

教育(学歴)が身分や家柄による地位配分システムによってかわり、社会的階層の障壁を崩す役割を果たしている。

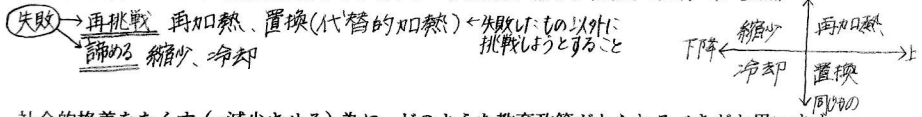
身分によって教育に力を入れる度合が変わる。→ そうすると、身分の高い = 教育を受けられている  
身分の低い = 教育を受けられていない

4 家庭にはどのような教育力の格差がありますか (A後半, E, G参照)

〈経済力、親子の関係、家庭での生活習慣、親の対人関係、親同士の関係、時間的ゆとり〉

各家庭による様々な要因から教育力の格差があらわれると同時に、各家庭でしか学ぶことのできない学校でも学ばないようなことが得られる可能性もある。

5 失敗した時、どのような適応行動をとりますか (再加熱、縮小、置換、冷却) (F参照)



6 社会的格差をなくす (=減少させる) 為に、どのような教育政策がとられるべきだと思いますか。(G, E 参照)

教育の機会均等の実行と、充実、各学校及び自治体による家庭支援が必要だと思う。これにより、教育を受ける権利をもつ子どもと、教育を受けさせる義務のある保護者や、家庭のみなさん、多様な方面と相互に支え合うことができると思う。これは家庭に最も近い諸学校が実行しやすいのではないかと。

7 学校や教師は、社会的格差に苦しむ児童に対して、どのような指導をすればよいですか。

食事支援 子どもの栄養を確保するために、食事の支援  
子ども食堂

経済支援 政府や自治体による給付金や支援金を配ることで、  
貧困層の経済支援

教育支援 貧困で悩む子ども達に勉強を無償で教えた、  
学校外での学習費用を提供する支援

8 他の人のコメントをもらう

( ) → いつもよりいっぱいいたね

( ) → きれいに分かりやすくまとめられていて分かりやすいです。  
先生の言葉も書き込みがありがたいです

